

春風しゅんぷう
(白居易はくきよい)

一枝いつし先まずひら発ひらくえんちゆう苑えんちゆう中うめの梅

桜杏おうきよう桃梨とうり次第しだいにひら開ひらく

薺花せいかに榆莢ゆきよう深村しんそんの裏うち

亦また道いうしゅんぷう春風しゅんぷう我わがため為ためにきた来きたると

一枝先發苑中梅
櫻杏桃梨次第開
薺花榆莢深村裏
亦道春風爲我來

解説 春風が公平に人を喜ばせることを詠ったもの。

語釈 ※桜Ⅱ梅桃ゆすらうめ。さくらではない。バラ科の落葉低木。

※次第Ⅱ次々に。※薺花Ⅱなずなの花。※榆莢Ⅱにれの実をつつむ羽のような形のさや。食用になる。

通釈 春風は宮中の庭の梅の一枝を最初に開花させ、ゆすらうめ・あんず・桃・梨と段々と花を開かせる。一方、山里では、なずなの花を咲かせ、にれのさやに吹きつける。だから、こちらの方でも、我が為に吹いてくれたといって喜ぶのである。